

授業改善推進プラン【生活科】

谷戸第二小学校

1 日常の学習における課題分析

谷戸第二小学校の現状としては、学校周辺に公園や公共施設が多く、地域を知るため・調べるための題材となるものは豊富である。また、自然環境においても近隣に農園や東大農場があり、校内の畑も**比較的**充実しており、観察や栽培などの授業も多様に行うことができる。

しかし、生き物の飼育に関する学習については教材になるものが少なく、十分には行えていない。また、題材が限定される中で、児童の興味・関心が高まるような工夫を凝らし、体験的な活動を中心としてはいるが、そこから児童の考えを深めさせる活動まで十分に行えていない場合もある。

このような現状を踏まえ、具体的な活動や体験を通して、自分自身や自分の生活について新たに気付かせ、**考えを広げ深めることができる**授業を組み立てていかなければならない。

[目指す児童像]

- (1) 関心・意欲・態度：自分から進んで物事にかかわろうとしたり、活動を楽しんだりする。
集中し、熱中してかかわることを通して感動する。粘り強く取り組む。
- (2) 思考・表現：対象の特性をよくとらえ、工夫して表したり、その子なりの発想が表れたりしている。物事の微妙な点まできめ細かく感じ取る。
- (3) 気付き：主体的に活動する中で様々なことを感じ取り、気が付いたことを、比べたりたとえたりしながら、言葉や絵に表現する。自分の気付きを自覚し、**友達と伝え合う。**
- (4) 活動の過程で生活習慣や技能を身に付ける。
- (5) 自立への基礎を身に付ける。



2 授業改善の方策

- **気付きの質を高めるためには**、どのような体験や活動が適切であるかを吟味する。
 - ・ 具体的な活動体験等をその場限りのもので終わらせないよう、**自分の感想や意見をもち、友達の考えを聞き、比較できるよう**、お互いに情報交換を行わせる。
 - ・ 季節感や日常生活における行事などを大切にし、自分自身とのかかわりを重視しながら、体験活動を行えるようにする。
 - ・ 地域の豊富な学習教材を積極的に開発し、多様な活動を行えるように工夫する。
 - ・ 自然の不思議さや面白さを実感できるよう、授業を工夫する。
- 活動の際には担任以外の先生や地域・保護者のボランティアなど、安全に活動できる人的確保を行う。
- まとめ上げの作業でも**簡単な構成を考えて文章を書くよう**工夫し、「理科」「社会」「総合的な学習の時間」へとつながる活動の基礎を作り上げていく。



3 活用につながる指導

- (1) 「気付き」を基に自分の考えをもつことが難しい児童に対しては、「**見つける、比べる、たとえる**」などの具体的な視点を与えて支援する。
- (2) 他教科と関連した単元を構成したり、家庭との連携も図って学習したことを体験させたりして、児童の興味・関心が持続できるようにする。